

港区長賞

人の為の森林

赤坂中学校 中山 瑚都美

「四十億三千万ha」これは、二〇一〇年の森林面積で陸地の約三十%ほどです。六十年前の一九五〇年に比べると「八億二千ha」ほどの面積が減っています。これは、陸地の約七%の森林を失ったことを意味します。

森林面積が減っていくのに比例して、私達が日頃、森林について考える機会も確実に失いつつあります。私達が生活をする上で、とても大切で、身近な存在である「森林の利用」に対し、「森林」そのものに触れる機会は、案外少ないです。

では、森林そのものの役割と、森林を利用することの違いとは、何でしょうか。森林を利用しているものは、生活の中でも良く見られます。例えば、木材でできている、椅子や机、建物等はもちろんそうだし、鉛筆等も木を切ってきているものです。森林の中の木を利用し、加工して、森林は、私達の生活でかかせないものに変身します。

森林の役割については、技術科で、次のように学びました。「空気の浄化」「土壌流出の防止」「水源かん養」の三つです。分かりやすく言うと、「温暖化防止」「土の支え」「自

然ダム」のようになります。

森林を森林のまま、自然的に利用するのと、人が手を加え、道具として扱うもの。この二つの利用の違いが、森林を減らすことになった大きな原因ではないでしょうか。確かに、どちらも大切な役割であるのは事実です。しかし、森林のためだけの森林ではなく、他の自然の原点となるのが森林です。そして、人を心身ともに癒してくれるのも森林の効用の一つなのです。

これから「森林を増やす」というのは、難しいかもしれませんが、現状を維持できたらなと思います。

その為は何ができるかを調べるために、今年の夏休み、人工林と自然林の二つの森林に行ってきました。人工林は、歩きやすかったです。土の乱れもなく、木も均等に並んでいました。一方で自然林は、土の固さの違いがあったり、木の並び方もバラバラだったけど、空気が清々しく気持ちよかったです。この二つの森林を通して、「自然が人にあたえる影響ってすごいな」と思いました。

こんなにも、人にとって大切な自然を守るために、私達にできることは「知る」ことだと思いました。知識として森林のデータを得るのも、人工林と自然林の違いを体感するのも、とにかく人にとっての森林、自然をたくさん知っていく事が大切だと思いました。

たくさんさんの森林を知った上で、木を保護したり、リサイクルを心がけていきたいなと思います。

自然のためでも人のためでもある森林を、これ以上減ら

さないように、私達が保護して生かして、これからも、たくさんの人の中で「大切な存在」として残るよう願っています。